



姉妹都市交流40周年記念 アカプルコ写真展～支倉常長が訪れたアミーゴの町～

2013年、仙台市とアカプルコ市（メキシコ合衆国）は国際姉妹都市提携40周年を迎えます。

今を遡ること400年、仙台藩主・伊達政宗の命を受けスペイン・ローマを目指した支倉常長ら慶長遣欧使節は、1613年10月に石巻の月浦を出航し、翌1614年1月アカプルコに到着しました。この歴史的な縁から、1973年10月23日、両市は国際姉妹都市協定を締結しました。

この写真展では、姉妹都市交流40周年を記念し、アカプルコ市役所の協力を得て、国際的な観光保養都市であるアカプルコの美しい海岸やメキシコならではの鮮やかな色にあふれた街並み、40年にわたり積み重ねられてきた両市の交流の様子を写真でご紹介します。遠く離れた距離にあっても、様々な交流事業を通じ友好を深めるとともに、ハリケーンや地震などの災害時には我が事のように心を寄せ合う友人（アミーゴ）のいる町・アカプルコについて、関心と理解を深めていただければ幸いです。

仙台市/公益財団法人仙台国際交流協会

アカプルコ市概要

アカプルコ市は、メキシコ合衆国南部ゲレーロ州最大の都市で、国際的な観光保養都市として知られています。紺碧の海、美しい海水浴場に恵まれ、海岸線に沿って多くのリゾートホテルや別荘が並ぶ、メキシコを代表する常夏のビーチリゾートの一つです。



(アカプルコ市章)

アカプルコ市基礎データ

■正式名称	アカプルコ・デ・ファレス
■人口	約79万人
■面積	1,880.6平方キロメートル
■主要産業	観光業
■地理	首都メキシコシティから約400km、飛行機にて約1時間。
■主要スポット	断崖からのダイビングショーで有名なラ・ケブラダ サンディエゴ要塞(歴史博物館) 支倉常長像のある日本広場 ディエゴ・リベラの壁画で有名な風の家 など



アカプルコは古くから、メキシコの外港、特に太平洋側の貿易港として大きな役割を果たしてきました。スペイン植民地時代には、ガレオン船によるマニラ（フィリピン）との貿易の拠点となり、その積荷を狙って襲来する海賊への対策としてサンディエゴ要塞が建てられました。その後、1930年代から始まったリゾートホテルの建設や、メキシコシティ-アカプルコ間の高速道路の開通により、観光開発が進んだアカプルコは、一躍世界的なリゾート地となり、ハリウッドスターや多くの外国人観光客を集めることになりました。現在ではメキシコ国内からも多くの観光客がこの地を訪れています。

また、1609年には、マニラからアカプルコを目指し航海をしていたフィリピン総督ドン・ロドリゴ一行が、房総半島沖で遭難し地元民に救出されました。このことは、日本とメキシコの交流の始まりと言われています。1614年には、サン・ファン・バウティスタ号に乗った支倉常長ら慶長遣欧使節が、アカプルコへ上陸します。このように、アカプルコは古くから日本と縁の深い場所であり、これらの史実に基づき、仙台市及び御宿町（千葉県）と姉妹都市協定を締結しています。



(現在のアカプルコ市政府のロゴマーク)



アカプルコ湾



海岸に沿って建つ家と栈橋



アカプルコ湾に停泊する大型客船



アカプルコを象徴する美しいビーチ



ラ・ケブラダで行われる断崖からのダイビングショー



海賊の襲来に備えて建てられたサンディエゴ要塞（現在の建物は後に復元されたもの）



ソカロ(中央広場)



色鮮やかな野菜が並ぶ市場



メキシコで一般的なココナッツのお菓子



アカプルコ市が行っている亀の保護・放流プログラム



海岸に展示されている砂の彫刻